



学校だより

3月号

横浜市立六つ川台小学校
平成27年2月27日

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>

ありがとうの言葉

学校長 柳澤 潤

正門の梅の花が、次々に花を咲かせました。赤や白に彩られた空間は、お祝いの席のような賑やかさがあります。春は「自分の力で立派に花を咲かせよう、どこまでも空に伸びていこう」とする、植物の躍動感にあふれています。

「寒いけど あたたかいのは 思いやり」5年生のAさんの標語が、廊下に飾られています。優しさが伝わる言葉です。本校の学校教育目標は「自ら学び、思いやり広げよう台小の子」です。自ら学ぶ子を育てているか、思いやりのある子に育てているか等、職員でも「振り返りと次年度に向けての取り組み」を練っています。

意見交換の中で、人に対する「思いやり」は、「まず、自分が愛されているという実感がないと、他人を思いやることはできないのではないか」と、いつも話題になります。愛されている自分、自己肯定感の高い自分がないと、他者に思いが回らないということです。あいさつの大切さは、「おはようございます」の一言を毎日続けることで、「あなたを見ていますよ、気にしていますよ」と、子どもにメッセージを発信し続けることにあると思います。続けることの意義をかみしめて、正門でのあいさつ運動を来年度も継続していきます。

一言の声かけを大切にする取り組みとして、今年度は「なかまの木；咲かせよう みんななかよく きぼうの花」という、なかまの木に花をいっぱい咲かせる活動をしました。幅6メートルもある大きな木の模造紙に、お友達や親から言われてうれしかった一言を花の形に切り抜いたカードに書き、一枚一枚貼っていくのです。台小の全児童で書きました。大きな木が、うれしかった言葉の花でいっぱいになりました。カードに書かれた言葉には、「ありがとう」という言葉がいちばん多くありました。そのほか、「だいじょうぶだよ」、「ドンマイ」、「大好き」や、「生まれてきて、ありがとう」、「ずっと一緒だよ」、「かわいいね」などの言葉もありました。異学年交流や縦割り活動で子どもたちがいい顔を見せるのは、他学年の子どもから優しく声をかけてもらったり、一緒に遊んでもらったりするときです。そして、ありがとうの気持ちが伝わる時は、伝えた方も伝わった方もとてもうれしそうです。

新聞記事の中に、「ありがとうは奇跡の言葉である。口に出せば元気が出る。耳に入れば勇気がわく」という一文を見ました。「ありがとう」は、本当にうれしい言葉なんですね。一日の生活で、何回「ありがとう」の言葉を使っているでしょうか。学校でも家庭でも、生活の中で「ありがとう」があふれてくると、相手との関係がよくなり、気遣いやかわりが増えて、思いやりの輪が広がっていくのではないかと思います。

6年生は、3月2日に感謝を伝える会があります。感謝の「ありがとう」がいろいろな人に届くすてきな会になってほしいと願っています。委員会や集会、行事など、そして、特別クラブでも中心になって活躍した6年生です。3月21日は、卒業証書授与式。自ら学び、思いやりを広げる台小のリーダーとして、頭を上げ、胸を張って卒業して欲しいと思います。ありがとうのあたたかい気持ちに包まれた式をつくっていきます。

平成26年度も、地域・保護者の皆様、関係者の皆様に変にお世話になりました。応援いただきました、助けていただくこともありました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。